

R4年度 西遠都市圏総合都市交通体系調査
計画課題、及び調査項目・選択肢

1. 計画課題の整理
2. 調査項目、及び選択肢の設定

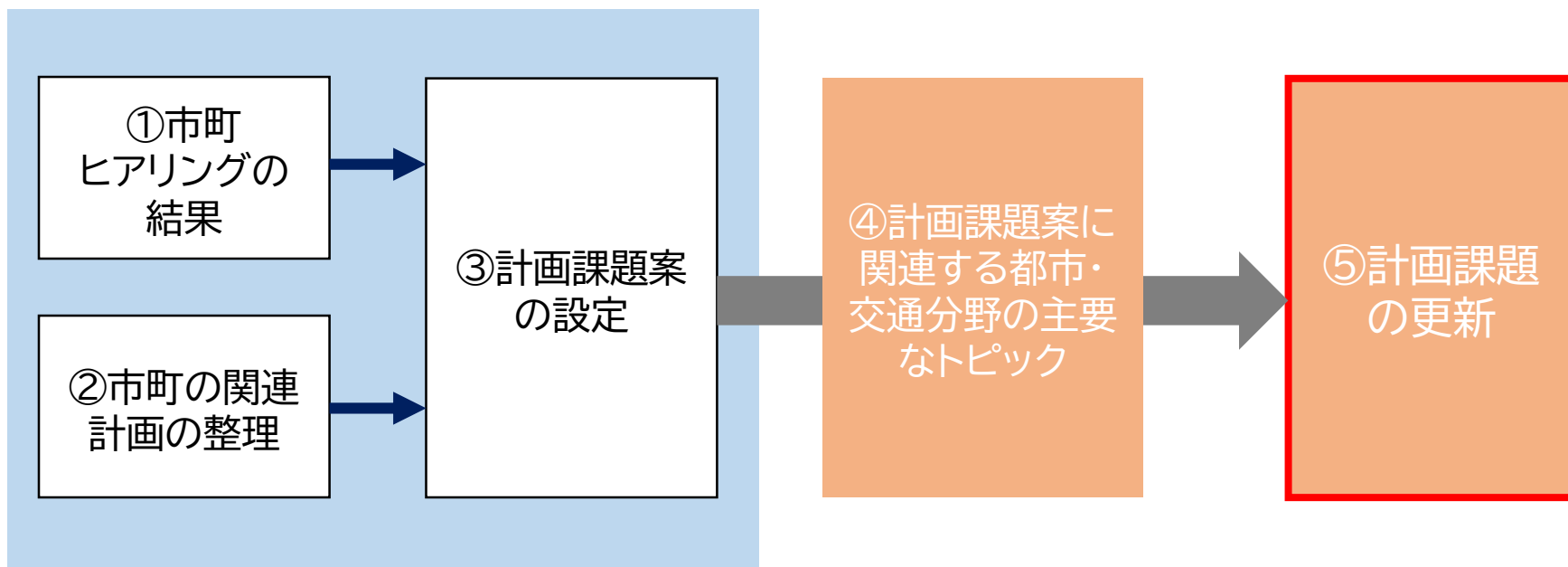
令和4年7月

1. 計画課題の整理

(1) 計画課題の設定の考え方

- 第4回予備調査委員会で提示した「計画課題（案）」の更新を検討。
- 具体的には、計画課題（案）に関する都市計画・交通計画分野の近年の主なトピックを整理し、その結果を踏まえて、更新を実施。

西遠都市圏総合都市交通体系調査 第4回予備調査委員会(令和4年3月17日)



1. 計画課題の整理

(2) 市町ヒアリングの結果【第4回での提示内容】

- 計画課題（案）の抽出にあたり、関係市町に対してヒアリング調査を実施。
- 交通に関する市町の各種課題を聴取し、分類ごとに整理。
- これら市町の課題と関連計画の記載内容を踏まえ、「都市構造」と「交通（ネットワーク）」の2つの観点から「計画課題案」の抽出を実施。

■市町ヒアリング調査 概要

対象市町:西遠都市圏の7市町(浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、菊川市、森町)

調査期間:令和2年8月24日~9月25日

調査方法:アンケート調査票の提出による(とりまとめ後、作業部会で補足・意見交換)

調査内容:

- ・各市町の問題点、課題と目指す方向性【交通(道路、公共交通、都市交通施設)、土地利用、都市構造、社会構造等
- ・各市町の計画及び構想
- ・前回PTデータの活用状況
- ・その他要望、保有データの状況 等

調査結果(都市構造)【一部抜粋】:

- ・都市構造のコンパクト化の推進
- ・居心地が良く歩きたくなる空間(ウォークブルシティ)の形成
- ・災害リスク軽減に向けたまちづくりの推進

調査結果(交通ネットワーク)【一部抜粋】:

- ・道路網の強化による渋滞解消、アクセス性向上
- ・移動制約者の交通手段の確保
- ・新技術の導入

1. 計画課題の整理

市町ヒアリング結果 概要

区分	課題	目指す方向性（素案）	
都市構造等	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域における無秩序な開発 ・用途地域の縁辺部における宅地開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市構造のコンパクト化を軸とした交通ネットワークの形成 ・各拠点の交通結節点の機能強化による暮らしに応じた交通体系の構築
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・都市拠点の人口密度の低下 ・中心市街地のスポンジ化（空き家の増加や無秩序な駐車場の増加等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーカーブル推進事業によるまちなかの魅力向上 ・居心地が良く歩きたくなる空間の形成
	社会構造	<ul style="list-style-type: none"> ・過度な自動車利用の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に合わせた交通手段の役割分担の明確化と充実 ・公共交通利用促進に向けた効率的で利便性の高い公共交通体系の形成
	社会構造	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の急激な進展 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の移動を支える交通環境の創出（デマンド交通、AIデマンド、循環バスの検討等）
	産業活動	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸部への工場等施設移転による通勤時間帯の交通集中 ・浜名湖西岸地区における産業集積に伴う交通集中 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備、交差点改良等のハード施策、時差通勤、シャトルバス導入等のソフト施策による交通集中の分散 ・（都）大倉戸茶屋松線の整備
防災減災	<ul style="list-style-type: none"> ・津波、土砂災害の発生リスクのエリアが広範囲にわたっており、市街化区域内にも一部存在する 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害リスク軽減に向けたまちづくりの推進（地区計画等の都市計画法の活用） 	
交通（ネットワーク）	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・国道1号の渋滞及び渋滞に起因する事故の発生 ・国道1号掛川バイパスの渋滞 ・東名高速道路と新東名高速道路との相互に連絡する道路が脆弱 ・JR菊川駅周辺において、朝・夕の時間帯に企業バスや自家用車による送迎が集中し、混雑が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道1号浜松バイパス連続立体整備による渋滞の解消 ・浜松三ヶ日・豊橋道路（仮称）の整備による重要港湾三河港へのアクセス強化 ・国道1号掛川バイパス、日坂バイパスの4車線化整備 ・JR菊川駅南北自由通路及び北口駅前広場の開設による分散
	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域内における歩いて暮らせる良好な都市環境の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・人中心の道路ネットワークの形成 ・ウォーカーブル推進事業によるまちなかの魅力向上
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹的な公共交通のサービスレベルの低下 ・バス利用者の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道・バスの乗り継ぎ円滑化 ・デマンドバスやデマンドタクシー等による代替
	新交通	<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転技術の普及 ・MaaSの実装 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転技術の普及、MaaSの実装に向けた社会実験等、施策の推進 ・湖西市は、企業の送迎バスを活用した企業シャトルBaaSモデルを構築を目標としている
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の移動制約者の交通手段確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通、AIデマンド等の導入、維持確保のためのルール等の検討
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既存道路幅員の再配分による自転車通行空間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車と歩行者を分離した通行空間の確保 	

1. 計画課題の整理

(3) 関連計画の整理【本委員会での補足事項】

- ・ 参考に、主要な上位計画・関連計画の計画期間、基本理念を下表に示す。
- ・ 主要な上位計画・関連計画においては、「暮らし」「経済」「持続可能性（防災・減災）」の観点が概ね考慮されている。

計画名称	策定年月	計画期間	基本理念(青:「暮らし」に関わる記載、緑:「経済」に関わる記載、紫:「持続可能性(防災・減災)」に関わる記載)
静岡県の新ビジョン	平成30年 (2018年)	令和9年 (2027年)	富国徳の「美しい“ふじのくに”」づくり～ 静岡県を Dreams come true in Japanの拠点に～ ①安全・安心な地域づくり ②未来を担う有徳の人づくり ③豊かな暮らしの実現 ④魅力の発信と交流の拡大
浜松都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (浜松市)	令和3年 (2021年) 3月	令和17年 (2035年)	「多彩に輝き、持続的に発展する都市」 ①自然環境と共生した持続可能な都市の実現 ②都市活力の持続と向上 ③地域特性を活かした都市づくりと相互連携の強化 ④市民生活の質の向上 ⑤市民の参加・協働による都市づくりの推進
湖西都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (湖西市)	令和3年 (2021年) 3月	令和17年 (2035年)	①自然と共生し歴史を身近に感じる都市づくり ②住み続けられる環境を創造する集約連携型の都市づくり ③産業の多様な価値と活力を創造する都市づくり ④災害の最小化と迅速な復興により、安心して暮らせる都市づくり
磐田都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (磐田市)	令和3年 (2021年) 3月	令和17年 (2035年)	①集約連携型の都市づくり ②新たな活力にみちた都市づくり ③災害の最小化と迅速な復興により、安全で安心・快適な住みよい生活環境づくり ④地域の歴史・文化・豊かな緑・水の環境を活かし、環境と共生する都市づくり ⑤みんなが集い・交流を進める都市づくり
中遠広域都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(袋井市、森町)	令和3年 (2021年) 3月	令和17年 (2035年)	①連携と交流による、にぎわいと活力あふれるコンパクトな都市づくり ②快適な都市基盤を創出し、健康でいつまでも住み続けたい豊かな都市づくり ③災害の最小化と迅速な復興により、安全で安心して暮らせる都市づくり ④美しい自然、歴史、文化と調和・共生した都市づくり ⑤豊かな人材が支えあい、住民・企業・行政がともに進める都市づくり
東遠広域都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(掛川市、菊川市)	令和3年 (2021年) 3月	令和17年 (2035年)	①多様な拠点の充実と連携促進による賑わいのあるコンパクトな都市づくり ②暮らしを支える産業が力強く活力を生み出す都市づくり ③災害の最小化と迅速な復興により、安全・安心・快適で、人が集まる住み続けたい都市づくり ④地域資源を活かした個性的で誇りの持てる都市づくり ⑤農地や周辺環境と調和・共生した都市づくり ⑥市民・企業・行政等の協働による都市づくり

1. 計画課題の整理

(3) 関連計画の整理【第4回での提示内容】

- 都市圏市町における都市交通関連計画を抽出。（区域マスタープラン、都市計画マスタープラン、立地適正化計画、地域公共交通網形成計画など）
- 関連計画に記載された課題や基本理念、基本方針等を整理。

● 浜松市

【地域構造】

- 浜松駅を中心に、中枢都市機能の集積を図り、周辺部へは都市拠点・地域拠点を配置したコンパクトな形態
- 都市と自然が共生できる適正な土地利用

【主な施策】

- 都心居住促進、地区計画等による郊外の居住環境改善
- 都心部の歩行環境整備、公共交通の活用・各交通機関の適正な機能分担
- 市街地形成、産業活動を支える道路網の整備

● 磐田市・湖西市

【地域構造】

- JR鉄道駅、既成市街地の各拠点へのまとまりある市街地形成、拠点間の連携強化
- 周辺都市との交流促進のための交通体系確立

【主な施策】

- 総合特区等による産業立地推進、土地区画整理・宅地開発事業等による居住環境創出
- 公共交通の活用・各交通機関の適正な機能分担、地域公共交通ネットワークの形成・維持
- 拠点間の連携強化、産業活動を支える道路網の整備

● 袋井市・森町・掛川市・菊川市

【地域構造】

- 幹線道路・鉄道・河川等を軸に自然と調和した市街地を形成

【主な施策】

- 地区計画等による居住環境保全、都市内緑地・都市風致の維持
- 既存公共交通の維持、地域公共交通の確保
- 隣接市・IC・空港と連携する道路網の整備、幹線道路の役割に応じた整備

	浜松市	磐田市	湖西市
都市構造	・浜松駅を中心に、中枢都市機能の集積を図り、周辺部へは都市拠点・地域拠点を配置したコンパクトな形態とし、産業・都市活力の創出、農地・自然環境・歴史・文化等の安全を図り、ユニバーサルデザインや防災などに配慮する。	・磐田駅、豊田町駅・磐田新駅、遠州豊田スマートIC、各支所等の周辺等、各拠点においてまとまりのある市街地の形成を図り、拠点間の連携強化のために、交通ネットワークを構築し、自立性を高めた都市圏を形成する。	・鷺津・新所原・新居等の既成市街地と産業拠点を中心に、集約・連携型の市街地形成を目指す、周辺都市圏との交流促進のために、交通体系を確立し、合わせて先にしたしした拠点間の連携強化を目指す。
土地利用	・都市拠点、地域拠点を配置したコンパクトな形態（区域MP） ・都市と自然が共生できる適正な土地利用の誘導（都市MP）	・集約連携型の都市づくり（区域MP） ・コンパクトシティ・プラス・ネットワーク（都市MP） ・人口密度の維持、都市機能の向上（立通）	・持続可能なコンパクトな都市づくり（区域MP） ・市街地の特性に応じた健全かつ機能的な土地利用（都市MP）
各計画に定める基本方針	・土地利用と整合のとれた交通体系の整備（区域MP） ・産業、経済、交流・観光活動を支える交通の確立（都市MP）	・交通ネットワークを計画的に構築（区域MP） ・公共交通の充実（立通）	・周辺都市圏との交流促進のための交通体系の確立（区域MP） ・拠点間の連携強化（区域MP）
安全・快適	・安全・安心で暮らしやすい交通の実現（都市MP）	・安全で安心・快適な住みよい生活環境づくり（区域MP） ・安全性の確保（立通）	・安全・安心・快適に移動できる交通環境の充実（網形成）
その他	・自然環境共生・持続可能な都市（区域MP） ・市民の参加・協働によるまちづくりの推進（区域MP） ・都市活力の持続と向上（区域MP） ・地域特性を活かしたまちづくりと相互連携の強化（区域MP） ・市民生活の質の向上（区域MP）	・環境と共生する都市づくり（区域MP） ・歴史・文化が薫る都市づくり（区域MP） ・活力にみちた都市づくり（区域MP）	・自然と共生し歴史を身近に感じる都市づくり（区域MP） ・産業の多様な価値と活力を創造する都市づくり（区域MP）

	袋井市	森町	掛川市	菊川市
都市構造	・袋井駅・森町役場周辺を都市拠点、愛野駅・上山地区、遠羽支所周辺を地域拠点として、拠点間を結ぶ幹線道路及び鉄道に沿って都市連携軸を形成し、本区域内外との交流・連携を促していく。 ・また、森掛川に周辺の市街地形成を図り、山地・丘陵地等の田園景観への調和、ユニバーサルデザインや防災へ配慮した市街地の形成を目指す。	・市街地周辺部を取り巻く自然緑地や、茶畑、田園などの農業地帯、区域内を流下する菊川、逆川などの諸河川を水・緑の軸として機能保全し、これらの中に各地域の中心的な市街地を築きとしたコンパクトで緑豊かな市街地形成を図ることを基本とする。		
土地利用	・コンパクトな都市づくり（区域MP） ・住み続けたい都市づくり（区域MP） ・集約的な土地利用（都市MP）	・コンパクトな都市づくり（区域MP） ・住み続けたい都市づくり（区域MP）	・コンパクトな都市づくり（区域MP）	・コンパクトな都市づくり（区域MP）
各計画に定める基本方針	・拠点間を結ぶ都市連携軸の形成（区域MP）	・拠点間を結ぶ都市連携軸の形成（区域MP）	・持続可能な公共交通体系の構築（立通）	・各拠点間を連携・連絡する交通体系の確立（都市MP） ・持続可能な公共交通網の構築（網形成）
安全・快適	・災害に強く安全で安心して暮らせる都市づくり（区域MP）	・災害に強く安全で安心して暮らせる都市づくり（区域MP）	・安全・安心・快適な都市づくり（区域MP）	・安全・安心・快適な都市づくり（区域MP）
その他	・自然、歴史、文化と調和・共生した都市づくり（区域MP） ・住民・企業、行政がともに進める都市づくり（区域MP）	・自然、歴史、文化と調和・共生した都市づくり（区域MP） ・住民・企業、行政がともに進める都市づくり（区域MP）	・環境と調和・共生した都市づくり（区域MP） ・市民・企業・行政等の協働による都市づくり（区域MP） ・産業、活力を生み出す都市づくり（区域MP） ・地域資源を活かした都市づくり（区域MP）	・環境と調和・共生した都市づくり（区域MP） ・市民・企業・行政等の協働による都市づくり（区域MP） ・産業、活力を生み出す都市づくり（区域MP） ・地域資源を活かした都市づくり（区域MP）

1. 計画課題の整理

(4) 計画課題案【第4回での提示内容】

- 市町ヒアリングにより確認した課題と関連計画における課題、基本方針などを踏まえ、計画課題（案）として5項目を抽出。

■「暮らし」の視点

- ①集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化
- ②高齢者を始め誰もが安全・快適に暮らせる地域公共交通等、交通環境の維持・確保

■「経済」の視点

- ③都市圏の産業・経済活動を支える広域的な都市間連携の強化と円滑な道路交通体系の実現

■「防災・減災」の視点

- ④激甚化・頻発化する災害へのリスクを踏まえた交通体系の実現

■「スマート化」の視点

- ⑤新たな技術の活用による交通体系の構築

1. 計画課題の整理

(5) 計画課題案に関連する都市・交通分野の主要なトピック

■①集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化

- 新型コロナウイルスの流行を契機に、**多様な暮らし方を支える**都市の重要性の高まり。

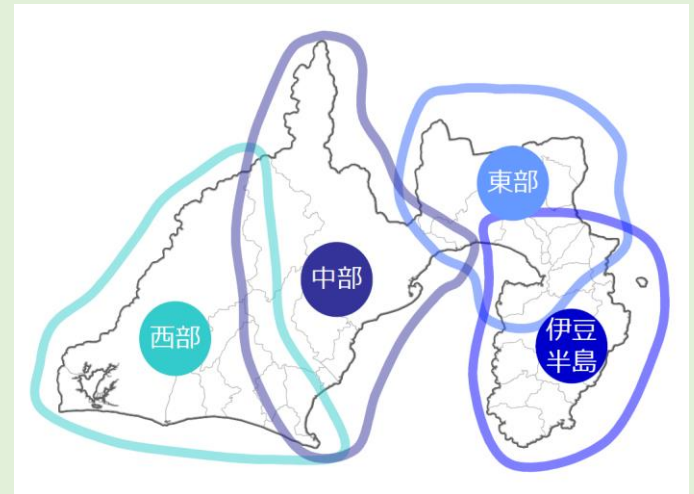
「静岡県の新ビジョン(静岡県)」の概要 計画期間:平成30年(2018年)~令和9年(2027年)

■目指す姿:県民幸福度の最大化

人々が人生の夢を実現し、幸せを実感できる地域となる本県が目指すのは、「県民幸福度」の最大化です。グローバル化が進展し、社会構造が変化する中で、異文化との接触の機会が増え、社会の様々な場面で多様化が進んでいます。**異なる価値観が共存し、多様性を尊重する開かれた社会は、活力に満ちた明るいものとなります。**こうした時代には、社会に多くの選択肢が用意され、選択の機会が得られることが、県民の幸福を増進させることになるものと考えられます。**多様性を尊ぶことは、個人を尊ぶことであり、一人ひとりの理想を大切にすることにつながります。**

■西部地域の目指す姿:『世界トップクラスの技術と豊かな自然の恵みで新たな価値を生み出す創造都市圏』

- コロナ禍を踏まえ、感染症の再拡大や社会経済の大きな変化に対して、**柔軟で強靱な地域**
- 脱炭素社会に向けたオープンイノベーションの世界的な拠点として、水・エネルギー・経済の「地域循環共生圏」の形成
- 自動車産業の100年に一度の大変革に的確に対応し、次世代モビリティの開発を官民を挙げて取り組み世界をリードする地域
- 光・電子技術関連産業の集積と、次世代産業の形成、地域企業の新成長分野への参入が進み、多彩な産業が展開する地域
- 美しい浜名湖、多彩な文化、豊富な食材や花をはじめとする地域の魅力が高まり、文化・観光・スポーツ等の多様な交流が活発に行われる地域
- 産業や文化の多様性を育みながら、これを交流・革新の源泉として、新たな価値を創造し、力強く発展する地域



1. 計画課題の整理

(5) 計画課題案に関連する都市・交通分野の主要なトピック

■①集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化

- ・新型コロナウイルスの流行を契機に、**多様な暮らし方を支える**都市の重要性の高まり。

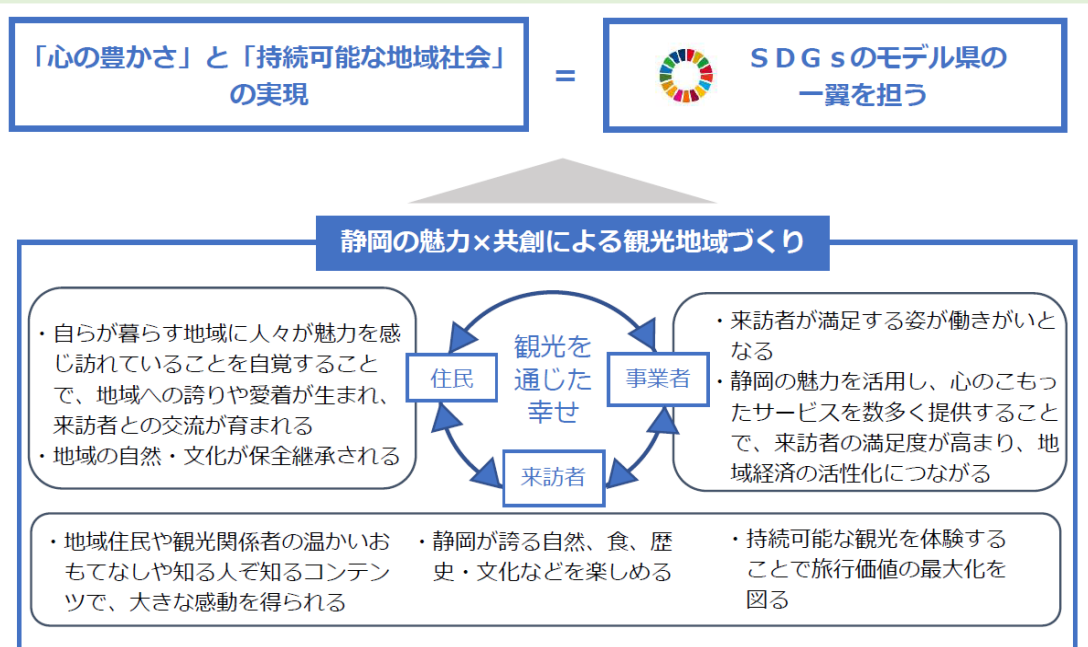
「静岡県観光基本計画(静岡県)」の概要 計画期間:令和4年(2022年)～令和7年(2025年)

■基本理念:**誰もが幸せを感じられる観光地域づくり**による**「心の豊かさ」と「持続可能な地域社会」**の実現

新しい生活様式が定着し、観光スタイルがますます多様化・複雑化していることに加え、旅行者の意識が変容し、持続可能な観光、SDGsへの関心は高まり、旅行先の選択の重要な要素となりつつある。

「SDGsのモデル県」を目指す本県は、日々の暮らしや自然環境に配慮しながら、県土に広がる美しい自然や多彩で高品質な本県産の食材を活用した和の食などを観光に活用するとともに、DXなどによりマーケティングとマネジメントを強化することで、変容する旅行者のニーズに十分に答えられる魅力的な観光地域であり続けることができる。

こうしたことから、**地域住民、観光事業者、訪れる人の誰もが幸せを感じられる観光地域づくりを進め、「心の豊かさ」と「持続可能な地域社会」を実現する。**



1. 計画課題の整理

(5) 計画課題案に関連する都市・交通分野の主要なトピック

■②高齢者を始め誰もが安全・快適に暮らせる地域公共交通等、交通環境の維持・確保

- ・ **MaaS、AIオンデマンド型交通等の新技術を含む多様なモビリティの活用による公共交通サービスの効率化。**



■地域公共交通計画

- ・ 地方公共団体による地域公共交通計画(マスタープラン)の作成を努力義務化
- ・ 従来の公共交通サービスに加え、**地域の多様な輸送資源(自家用有償旅客運送、福祉輸送、スクールバス等)**も計画に位置付け
- ・ 定量的な目標(利用者数、収支等)の設定、毎年度の評価等

地域公共交通網形成計画(H26改正)
 (市町村又は都道府県(市町村と共同)が作成)
まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成の促進

地域公共交通計画(今回改正後)
 (市町村又は都道府県(市町村と共同)が作成)

まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成 + **地域における輸送資源の総動員**

メニューの充実やPDCAの強化により、持続可能な旅客運送サービスの提供の確保



1. 計画課題の整理

(5) 計画課題案に関連する都市・交通分野の主要なトピック

■③都市圏の産業・経済活動を支える広域的な都市間連携の強化と円滑な道路交通体系の実現

- ・ **地域の多様な個性の育成**と地域間の交流によるイノベーションの創出。

国土の基本構想

「対流促進型国土」の形成:「対流」こそが日本の活力の源泉

- ・「対流」とは、多様な個性を持つ様々な地域が相互に連携して生じる地域間のヒト、モノ、カネ、情報の双方向の活発な動き
- ・「対流」は、それ自体が地域に活力をもたらすとともに、イノベーションを創出
- ・ **地域の多様な個性が対流の原動力であり、個性を磨くことが重要**

「対流促進型国土」を形成するための重層的かつ強靱な「コンパクト+ネットワーク」

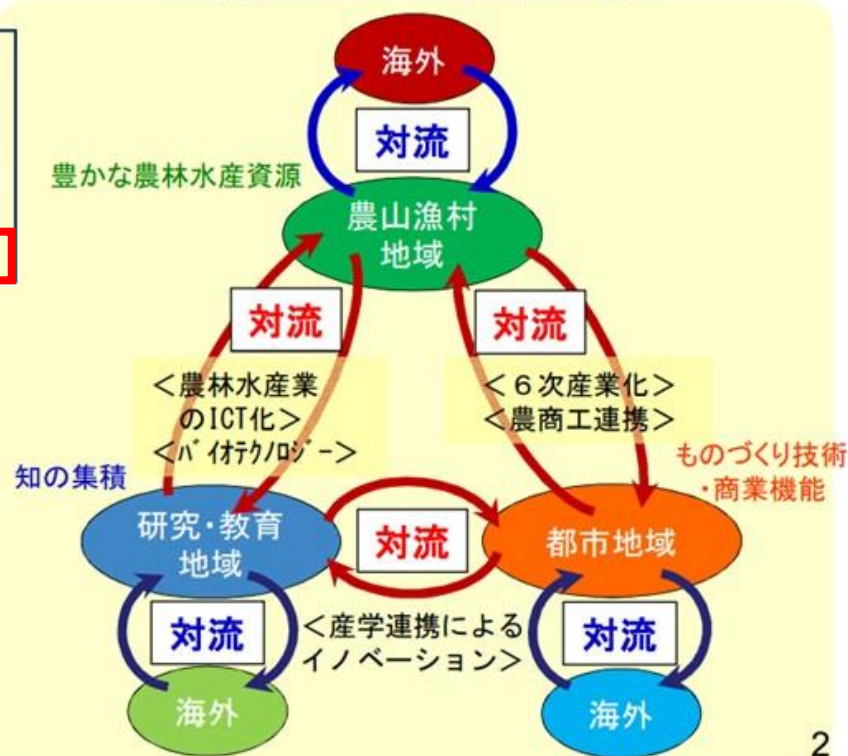
- ・「コンパクト」にまとめ、**「ネットワーク」**でつながる
- ・医療、福祉、商業等の機能をコンパクトに集約
- ・交通、情報通信、エネルギーの充実したネットワークを形成
- ・人口減少社会における**適応策・緩和策**を同時に推進

東京一極集中の是正と東京圏の位置付け

- ・東京一極滞留を解消し、ヒトの流れを変える必要
- ・魅力ある地方の創生と東京の国際競争力向上が必要

都市と農山漁村の相互貢献による共生

「対流」のイメージ:「個性」と「連携」



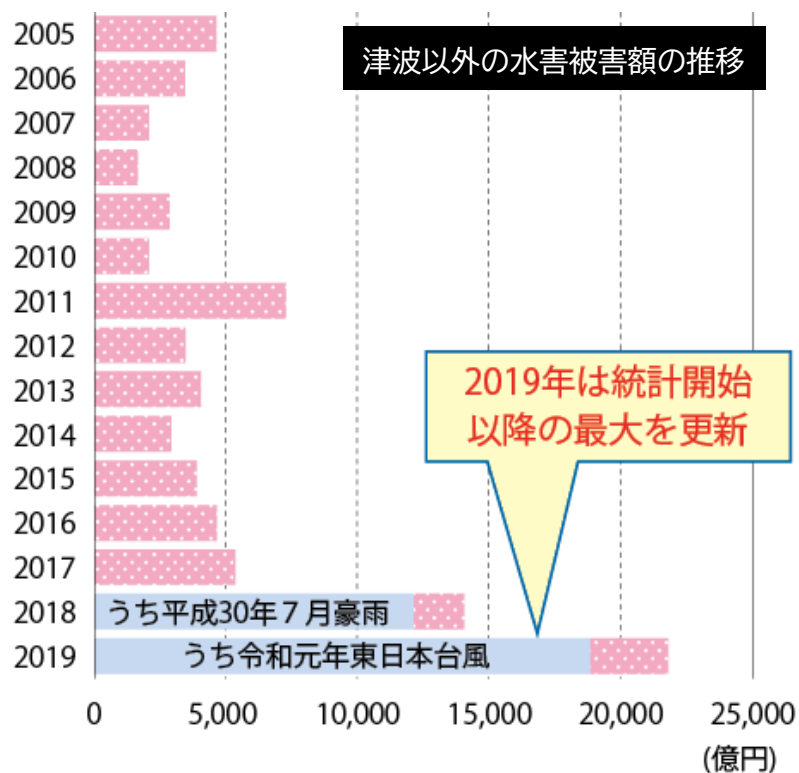
2

1. 計画課題の整理

(5) 計画課題案に関連する都市・交通分野の主要なトピック

■④激甚化・頻発化する災害へのリスクを踏まえた交通体系の実現

- （温暖化の影響による災害リスクの激甚化・頻発化）**温暖化による災害のリスクの緩和**に向けた脱炭素社会の実現。



■2050年 二酸化炭素排出実質ゼロ表明自治体(令和4年(2022年)5月31日時点)

東京都・京都市・横浜市を始めとする702自治体(42都道府県、415市、20特別区、189町、36村)が「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明。**表明自治体総人口約1億1,837万人**

■静岡県内の二酸化炭素排出実質ゼロ表明自治体

静岡県	御殿場市	浜松市
静岡市	牧之原市	富士宮市
御前崎市	藤枝市	焼津市
伊豆の国市	島田市	富士市
磐田市	湖西市	裾野市
袋井市	沼津市	三島市
小山町		

※赤字は西遠PT調査の対象都市

1. 計画課題の整理

(5) 計画課題案に関連する都市・交通分野の主要なトピック

■⑤新たな技術の活用による交通体系の構築

- スマートシティの実現による**共創型の都市マネジメントの推進。**



VIRTUAL SHIZUOKA データチャレンジ
 ～ドットあつまれ静岡観光大使～
 UDC2020静岡／IDC2020

無料

10月3日(土)
13:00-16:00

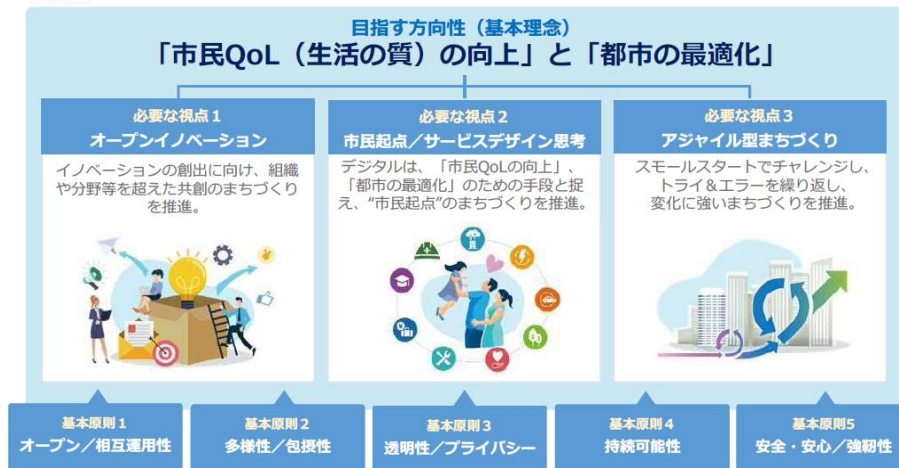
点群データで、アフターコロナの新しい観光を考えてみませんか？
 『観光』をテーマに『VIRTUAL SHIZUOKA』のデータを活用した『アイデアソン』を開催します。

出典:静岡県 HP

将来像

～ デジタルで“繋がる未来”を共創 ～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoL(生活の質)の向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。



出典:浜松市デジタル・スマートシティ構想

1. 計画課題の整理

(6) 計画課題案の更新

- 計画課題案に関連する都市・交通分野の主要なトピックを整理し、それらを踏まえて、計画課題案の更新を実施。

	計画課題案	都市・交通分野の主要なトピック	更新版の計画課題案
① 暮らし	集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの流行を契機に、多様な暮らし方を支える都市の重要性の高まり 	多様な暮らしを支える 集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化
② 暮らし	高齢者を始め誰もが安全・快適に暮らせる地域公共交通等、交通環境の維持・確保	<ul style="list-style-type: none"> MaaS、AIオンデマンド型交通等の新技術を含む多様なモビリティの活用による公共交通サービスの効率化 	多様なモビリティの活用による 誰もが安全・快適に暮らせる地域公共交通等、交通環境の維持・確保
③ 経済	都市圏の産業・経済活動を支える広域的な都市間連携の強化と円滑な道路交通体系の実現	<ul style="list-style-type: none"> 地域の多様な個性の育成と地域間の交流によるイノベーションの創出(対流促進型国土) 	都市圏の産業・経済活動を支える 個性的な地域の育成 と広域的な地域間の対流促進
④ 防災・減災	激甚化・頻発化する災害へのリスクを踏まえた交通体系の実現	<ul style="list-style-type: none"> 温暖化による災害のリスクの緩和に向けた脱炭素社会の実現 	温暖化のリスク軽減・緩和に寄与し、 激甚化・頻発化する災害に強い交通体系の実現
⑤ スマート化	新たな技術の活用による交通体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> スマートシティの実現による共創型の都市マネジメント 	新たな技術の活用による 共創型の都市マネジメント

2. 調査項目、及び選択肢の設定

(1) 調査項目（案）・選択肢（案）の設定の考え方

- 第4回で提示した調査項目案を更新。具体的には、近年のPT調査の調査項目、及び第1章で更新した計画課題（案）を踏まえて、更新。
- その後、調査項目の具体化として、選択肢（案）を設定。
※選択肢（案）は、調査票参照

西遠都市圏
総合都市交通体系調査
第4回予備調査委員会
(令和4年3月17日)



【主な内容】

- レイアウトについては、前回調査では個人票と世帯票の一体型で調査を実施したが、今回調査では、高齢者世帯での移動状況等、世帯類型別の移動を把握するため、**世帯票と個人票を分離**。
- 今回調査においても、標準調査項目をベースとして、**前回との継続性等を勘案しながら設定**。
- 新型コロナウイルス感染症の流行により、テレワーク等が進展し、移動形態が変化していることから、**新型コロナウイルス感染症による影響把握に向けた調査項目**の追加を検討。
- 前回調査は個人票、世帯票、付帯調査票(MM関連)で構成されていたが、今回調査は調査票の簡素化等により、個人票、世帯票で構成。

2. 調査項目、及び選択肢の設定

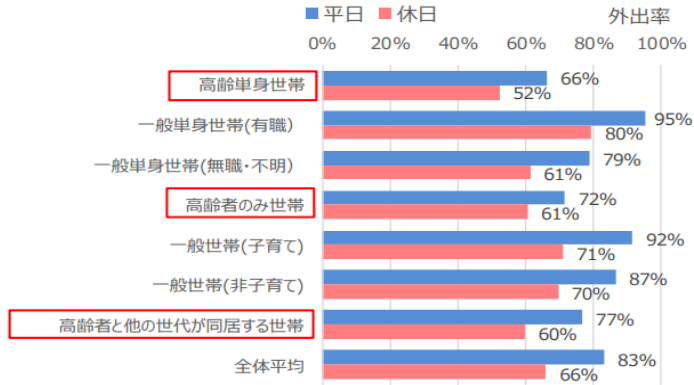
(2) 調査項目（案）・選択肢（案）の設定

		調査項目	変更、追加理由
世帯票	前回調査と同様	住所、性別、年齢、職業、産業、通勤・通学先、自由に利用できる自動車の有無	—
	新規追加	世帯主との続柄	【計画課題案①：多様な暮らしを支える集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化】 ⇒「ライフステージに応じた暮らし方の特徴整理」を行うための設問
		就業形態、始業時刻	【計画課題案①：多様な暮らしを支える集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化】 ⇒「働き方に応じた暮らし方の特徴の整理」を行うための設問
		ネットショッピングの利用習慣 デジタルコンテンツの利用習慣	【計画課題案①：多様な暮らしを支える集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化】 ⇒「Eコマースがまちなかの買い物活動に及ぼす影響の整理」を行うための設問
		テレワークの実施頻度	【計画課題案①：多様な暮らしを支える集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化】 ⇒「在宅勤務が及ぼす影響の整理」を行うための設問
		カーシェアリングの利用状況	【計画課題案②：多様なモビリティの活用による誰もが安全・快適に暮らせる地域公共交通等、交通環境】 ⇒「新たなモビリティの利用実態の整理」を行うための設問
		免許返納意向	【計画課題案②：多様なモビリティの活用による誰もが安全・快適に暮らせる地域公共交通等、交通環境】 ⇒「高齢者の詳細な活動実態の整理」を行うための設問
	選択肢の更新	自動車免許の保有状況	【計画課題案②：多様なモビリティの活用による誰もが安全・快適に暮らせる地域公共交通等、交通環境】 ⇒「高齢者の詳細な活動実態の整理」を行うために、「返納した」を追加
		自動車の保有台数	前回調査の利用状況や回答者の負担、紙面制約を勘案し、駐車場整備計画の検討に耐えられる区分で簡略化を実施
個人票	前回調査と同様	訪問した場所の種類、訪問場所の住所、出発時刻・到着時刻、乗降・乗換地点、運転の有無、二輪場所の駐車場所の種類、自動車の駐輪場所の種類	—
	新規追加	目的地での消費額	【計画課題案③：都市圏の産業・経済活動を支える個性的な地域の育成と広域的な地域間の対流促進】 ⇒「地域の特徴に応じた消費活動の実態整理」を行うための設問
		仕事した場所の種類、在宅勤務の実施状況 在宅勤務時の仕事時間	「新型コロナウイルス感染症による影響把握」を行うための設問 ※第4回予備調査委員会での検討事項
	選択肢の更新	目的の種類、建物・場所の種類	【計画課題案①：多様な暮らしを支える集約型都市構造の実現に向けたまちづくり施策と交通施策との連携強化】 ⇒「多様な暮らし方の実態整理」を行うために、私事目的の細分化
		交通手段	「レンタサイクル」「カーシェア・レンタカー」を追加
		同行人数	「同乗人数」を同乗人数を包含する「同行人数」に変更
	削除	同乗人数	「同行人数」に変更
		有料道路の利用の有無、乗降IC	前回調査の利用状況や回答者の負担、紙面制約を勘案し削除

【平日・休日】

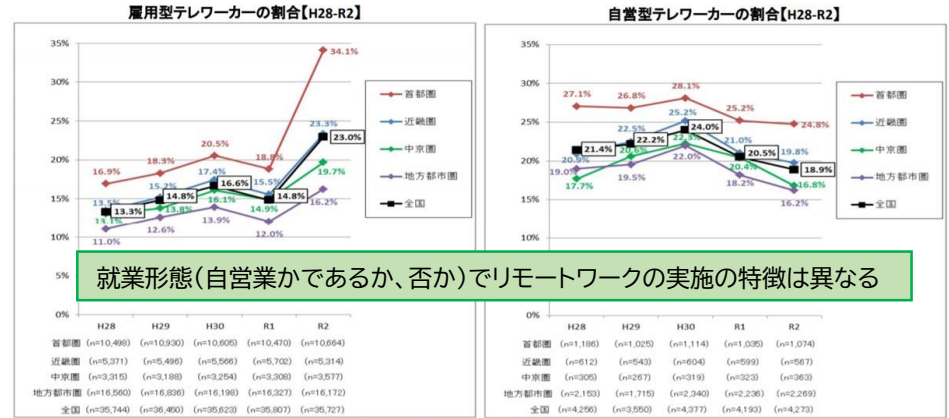
2. 調査項目、及び選択肢の設定

「ライフステージに応じた暮らし方の特徴整理」のイメージ



出典:第5回仙台都市圏 パーソントリップ調査 報告書:現況集計・現況分析編 (宮城県・仙台市)

「働き方に応じた暮らし方の特徴整理」のイメージ



出典:テレワーク人口実態調査(国土交通省)

「Eコマースがまちなかの買い物活動に及ぼす影響の整理」のイメージ

シナリオ	年次	考え方	人の移動・活動の変化の概要	トリップ数(万) ※1					外出率	外出なし高齢者(万人)	
				総数	通勤	買物私事	鉄道	自動車			バス ※2
現況	2018年	(実態調査時点)	-	7,066	1,515	1,578	2,350	1,845	437	76.0%	410
2018年型社会シナリオ	2040年	2018年の行動パターンが約20年後も継続するケース	<ul style="list-style-type: none"> 総トリップ数が減少 通勤は東京の都心の一部地域では増加するが、全域的には減少 買物及び私事の活動は東京区部の一部や政令市の中心等ではトリップ数が増加するが、他は横ばいか減少 鉄道は都心方向に向かうピーク時の混雑は緩和しない一方、郊外部では鉄道利用者は減少 バスは都市圏全体で減少、郊外部ほど減少が大きい 自動車は東京区部や政令市等で増加するが、その他の地域では減少 外出しない高齢者が増加 就業者の通勤時間は大きくは改善しない 	6,579 (-7%)	1,370 (-10%)	1,581 (±0%)	2,204 (-6%)	1,690 (-8%)	410 (-6%)	74.8%	483 (+18%)
ネットサービスの拡大シナリオ	2040年	ネットサービスの利用拡大等により、買物や私事活動に伴う移動が減少したケース	<ul style="list-style-type: none"> 買物及び私事トリップが全域的に減少 外出しない高齢者がさらに増加 高齢者等の外出が減ることでバス利用も減少 	6,108 (-14%)	1,370 (-10%)	1,304 (-17%)	2,173 (-8%)	1,544 (-16%)	391 (-11%)	70.9%	561 (+37%)
リモートワークの拡大シナリオ	2040年	リモートワークの一層の普及により、就業者の通勤が減少したケース	<ul style="list-style-type: none"> 都心方向の通勤トリップが減少し、ピーク時の鉄道の混雑が緩和 鉄道の利用者数が一層減少するため、鉄道サービスの維持が課題となる可能性 移動時間が削減され個人の暮らしとしてはゆとりが生まれる 	6,242 (-12%)	1,099 (-27%)	1,662 (+5%)	1,846 (-21%)	1,681 (-9%)	363 (-17%)	70.2%	486 (+19%)

将来的にEコマース、リモートワークが普及した際に活動に及ぼす影響を評価
 ■Eコマースの将来的な普及 - 活動量が14%減少

出典:第6回東京都圏パーソントリップ調査:新たなライフスタイルを実現する人中心のモビリティネットワークと生活圏(東京都市圏交通協議会)

2. 調査項目、及び選択肢の設定

「高齢者の詳細な活動実態の整理」のイメージ

身体的な困難さが大きいほど外出率が低下

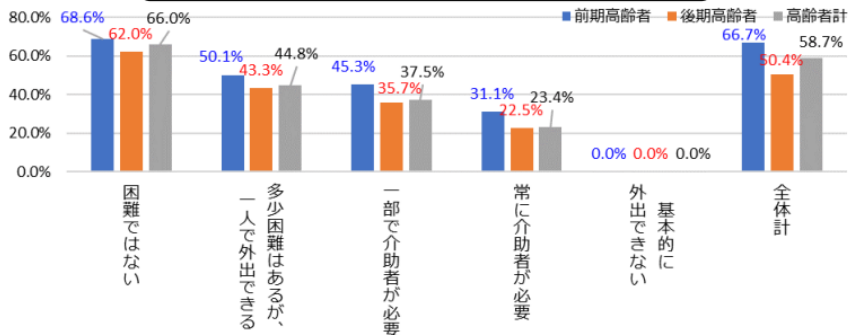
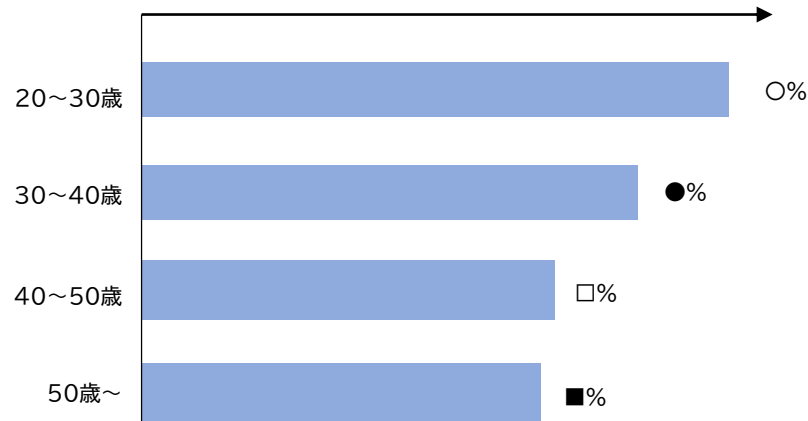


図 高齢者の身体的な困難さ別外出率(%)

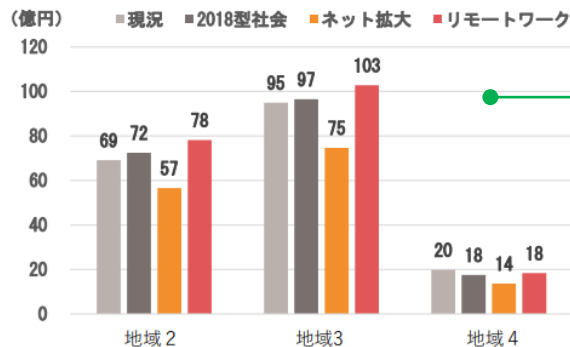
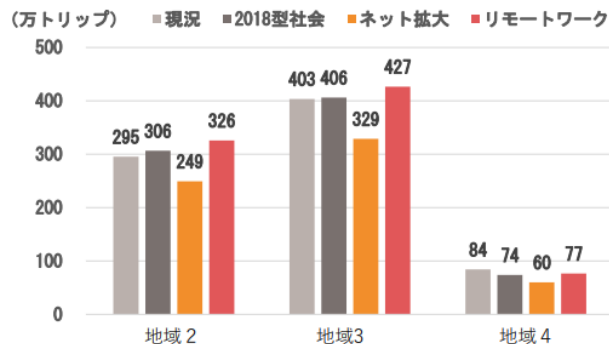
出典:第6回東京都市圏パーソントリップ調査:
暮らしにおける外出行動の分析の手引き(東京都市圏交通協議会)

「新たなモビリティの利用実態の整理」のイメージ

カーシェアリングの利用率(%)



「地域の特徴に応じた消費活動の実態整理」のイメージ



活動量の視点からだけではなく、
消費額の視点から将来シナリオを
評価

駅勢圏内の買物及び私事トリップ数 (左)・消費金額 (右) の変化

出典:第6回東京都市圏パーソントリップ調査:新たなライフスタイルを実現する人中心のモビリティネットワークと生活圏(東京都市圏交通協議会)